

令和元年度  
あまのくらし部会 実施報告

# あまのくらし部会の役割

障害のある人の地域生活を支援するための課題などについて協議します。

あまのくらし部会では、災害時にも生きる地域のネットワークづくり、親の高齢化に伴う障害のある人の自立生活や相談支援体制の整備などについて取り組んでいます。

# これまでのあまのくらし部会 ①

あまのくらし部会は、他の部会と比較して当事者団体が多数委員として任命されていることで、当事者だからこそ感じる視点について議論を重ねてきた。

実践している方のお話を聴いたり、実際に取り組まれている現場に足を運ぶことで、「障害者の暮らし」について、当事者であっても障害種別が異なれば、それぞれが異なった生き辛さを感じ、多様な暮らしを送っていることを認識しながら、あまのくらし部会は「障害者の暮らし」がより良いものとなるよう議論や活動を重ねてきた。

## これまでのあまのくらし部会 ②

その中でも、障害者の地域での自立生活の実現のために、地域住民と繋がることが重要であることを目的に、毎年、フォーラムの開催を継続して行ってきた。



障害の有無を問わず多様な生活が存在することの理解を当事者だけでなく、民生児童委員をはじめとした地域住民に対して、人と人との繋がりを深めていくキッカケ作りとなった。

# 課題について

支援者も地域と繋がりながら事業所を運営していく必要性を感じてはいるが、「いざ、具体的な取り組み」となると、どのように進めていけば良いかは悩ましい部分でもある。

あまのくらし部会（フォーラム）を通じて市民だけでなく、他領域の関係機関との連携・繋がりを大きな範囲で深めることで、当事者の視点に立った「障害者の暮らしに関する困り事（ニーズ）」の把握に努め、収集した困りごと（ニーズ）を表面化させ、具体的な事例を基に尼崎市の障害福祉政策に提言も必要であると考えます。

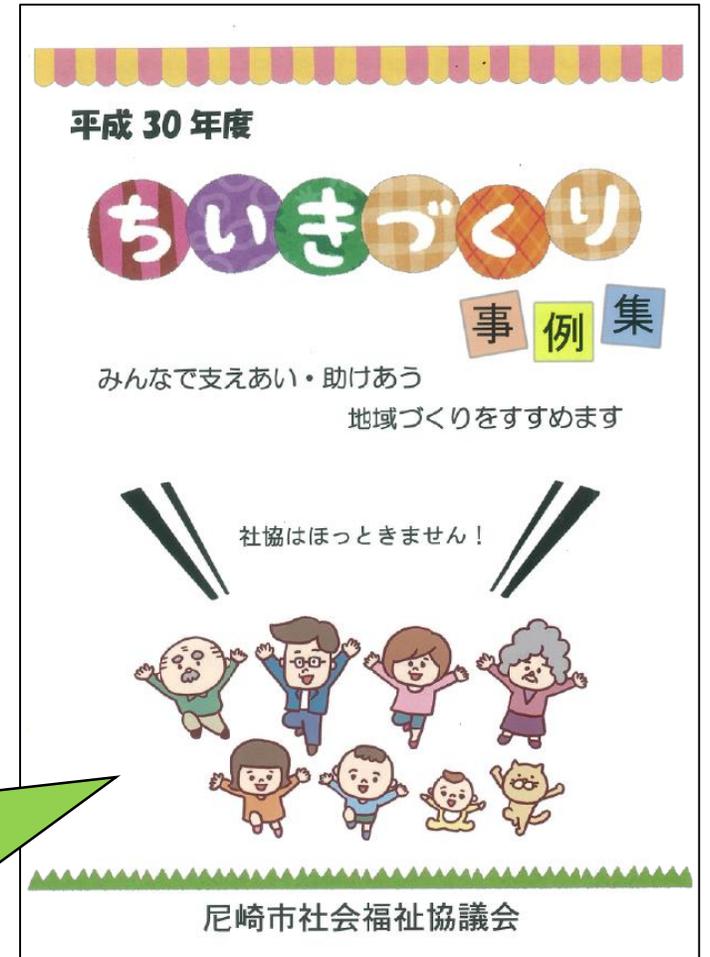
# 部会の開催と協議内容

第1回	自立支援協議会 (全体会)	第2回	第3回	第4回
平成31年5月14日	平成31年5月28日	令和元年6月25日	令和元年7月23日	令和元年8月27日
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度 実施報告の確認</li> <li>平成31年度 取り組みについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度 取り組み発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度 取り組みについて</li> <li>フォーラムについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「平成30年度ちいきづくり事例集」 活動報告について 中央 小田 大庄 立花 武庫 園田</li> <li>あまのくらし部会フォーラムについて ～開催テーマ等の選定 ～アンケート内容の検討</li> </ul>	
第5回	第6回	フォーラム	第7回	第8回
令和元年9月24日	令和元年10月29日	令和元年11月26日	令和2年1月28日	令和2年2月25日
<ul style="list-style-type: none"> <li>あまのくらし部会フォーラムの開催に向けて ～アンケート（防災等に関する意識調査）について ～フォーラムに向けた準備について ～当日まで及び当日の役割、スケジュールの検討</li> </ul>		テーマ： 「障害者の地域での自立生活を考える～災害時の備えはありますか？」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あなたの防災等に関する意識調査」 の集計結果の報告</li> <li>「あなたの防災等に関する意識調査」 の課題分析のグループワーク</li> </ul>	

# 「平成30年度ちいきづくり事例集」 の活動報告について①

今年度のあまのくらし部会の活動方針やフォーラムのコンセプトを選定する上で参考とする。何れの実践も冊子には記載し切れない事情も含まれていると思われることから、直接、各地区（6地区）の地域福祉活動専門員より実践の経過や着目した視点等をお聴きできる機会を設けることとした。

社会福祉協議会に所属している地域福祉活動専門員（兼生活支援コーディネーター）が地域住民の皆さんと一緒に活動に取り組まれた内容をまとめた事例集



# 「平成30年度ちいきづくり事例集」 の活動報告について②

## <各部会委員からの感想①>

- ・ 地域福祉活動専門員が地域の中に溶け込んで、地域住民と密接に繋がって活動していることがわかった。
- ・ 「主任児童委員」や「スクールソーシャルワーカー」、「地域学校協働本部コーディネーター」、「学生ボランティア」といった、日頃、対象としている方への支援のみでは接点のない人（社会資源）の存在に気付けた。

# 「平成30年度ちいきづくり事例集」 の活動報告について③

## <各部会委員からの感想②>

事例の中の地域活動に、  
障害者が参加していることが少ない。（複数回答）

取り組むべき  
課題

ただ待っているだけでなく、  
自分たちが地域の中で何ができるのかを示しながら、  
積極的に地域住民に関わっていくこと、繋がっていく  
ことが重要。

# あまのくらし部会 フォーラム ①

日時：令和1年11月26日（火）13時～15時50分

場所：中央北生涯学習プラザ 1階大ホール

参加者：172人 当事者・家族52人  
地域住民・民生児童委員57人  
支援者44人 ほか

## フォーラムの目的

- ・東日本大震災の実話をもとにした映画を通じて、障害者が直面した現実を知ってもらう。
- ・普段から備えておくことの重要性を伝える。
- ・参加者へのアンケート調査により、現在の暮らしの中で、どのような備えがされているかの確認。

## あまのくらし部会フォーラム

～ 障害者の地域での自立生活を考える ～

テーマ：「災害時の備えはありますか？」

日時

2019年11月26日（火）

午後1時～午後3時50分

場所

中央北生涯学習プラザ 1階「大ホール」

（電話）06-6482-1750

（住所）尼崎市東灘波町2丁目14-1

### ◆プログラム◆

- 0時30分 受付開始
- 1時00分 フォーラムの趣旨説明  
尼崎市自立支援協議会会長  
木下 隆志
- 1時10分 災害に関する意識調査  
「災害時の備えはありますか？」
- 1時30分 映画の上映  
「星に語りて ～Starry Sky～」  
（※上映時間は約2時間です。）
- 3時50分 終了・アンケートの回収



主催：尼崎市自立支援協議会 あまのくらし部会

# あまのくらし部会フォーラム ②

< 参加者の映画鑑賞後の感想① >

- 映画を基に**自分が何をできるのか**、その準備として今から何をすべきか考えたいと思います。
- 災害時の障害のある方やその家族の状況がとてもよくわかりました。その上で**支援者として何が備え**としてできることがあるか考えていく必要があると認識しました。
- 災害時の障害を抱える方々の**避難がいかに大変か**を知りました。民生委員として、まず**顔の見える関係作り**から始めたいと思いました。
- 災害が起きた時、**弱者が健常者の倍以上の被害を受ける**ことになる実情がよくわかりました。**地域ネットワークの構築**の大切さが、理解できました。自分たちのできる範囲で**行動に移したい**ものです。

# あまのくらし部会フォーラム ③

<参加者の映画鑑賞後の感想②>

- 私自身も阪神大震災を経験しました。**忘れていたことを思い出し**、再度、自分を守るにはと考えさせられました。
- 障害者の家族として本人をどのように守ったらいいいのか、その**ヒントを見つけたいと思って**参加した。障害のあるなしにかかわらず助けてほしい事、それを話せて、また聞き入れてもらえる**体制づくりの大切さ**、よくわかりました。**人と人との関わりの重要性**は、いつの時も一番で、そこから始まりますね。
- 障害者の意見なんてみんな真剣に聞いたり対応してくれないと思っていたけど、**声を上げれば**少しはましになると実感した。
- 自分が災害にあった時、助かる自信ない。阪神淡路大震災の時、食べ物が手に入らず苦勞した。ラジオでお知らせがあったらしいが、**私には聞こえなかった**ので。
- 障害を持つ方は**みんなの重荷になる**とかで避難所にも行けない。障害をもつ人の立場がわかりました。

# あまのくらし部会フォーラム ④

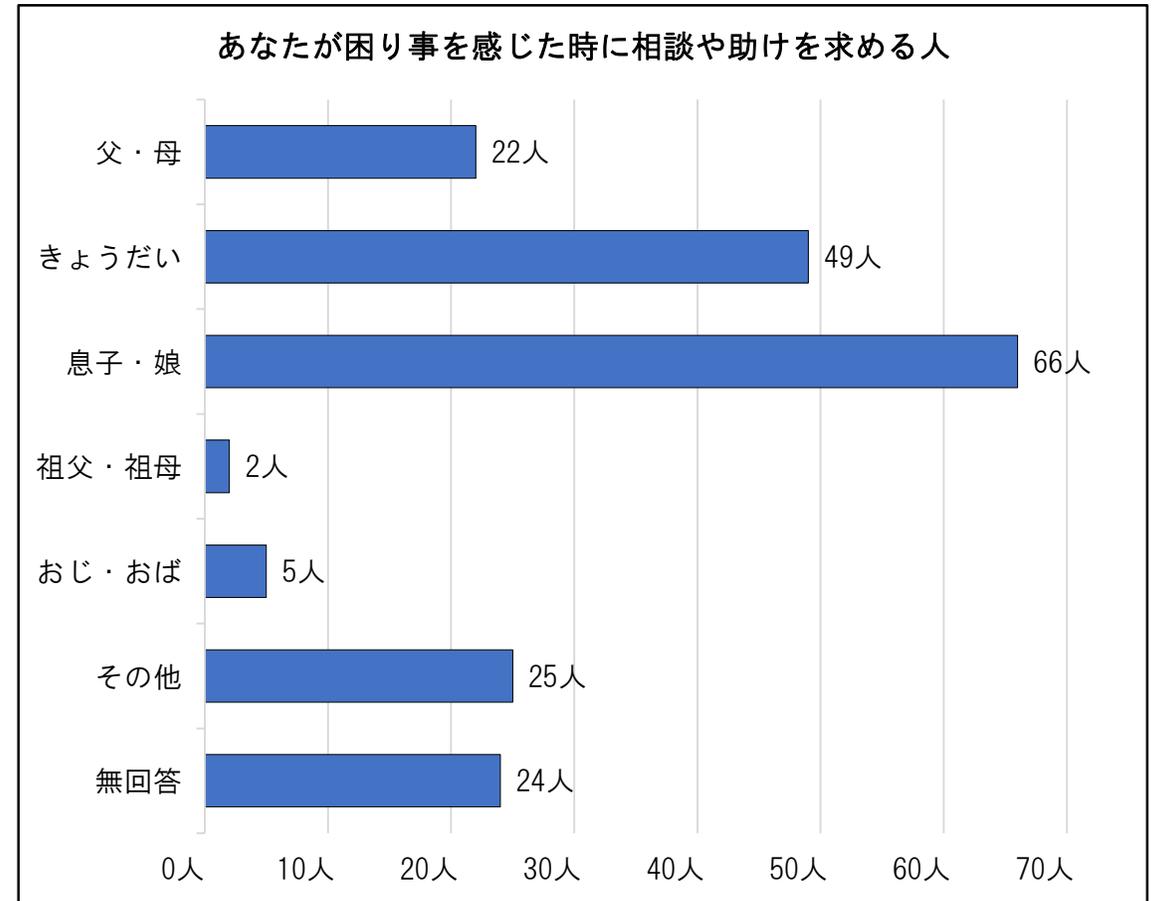
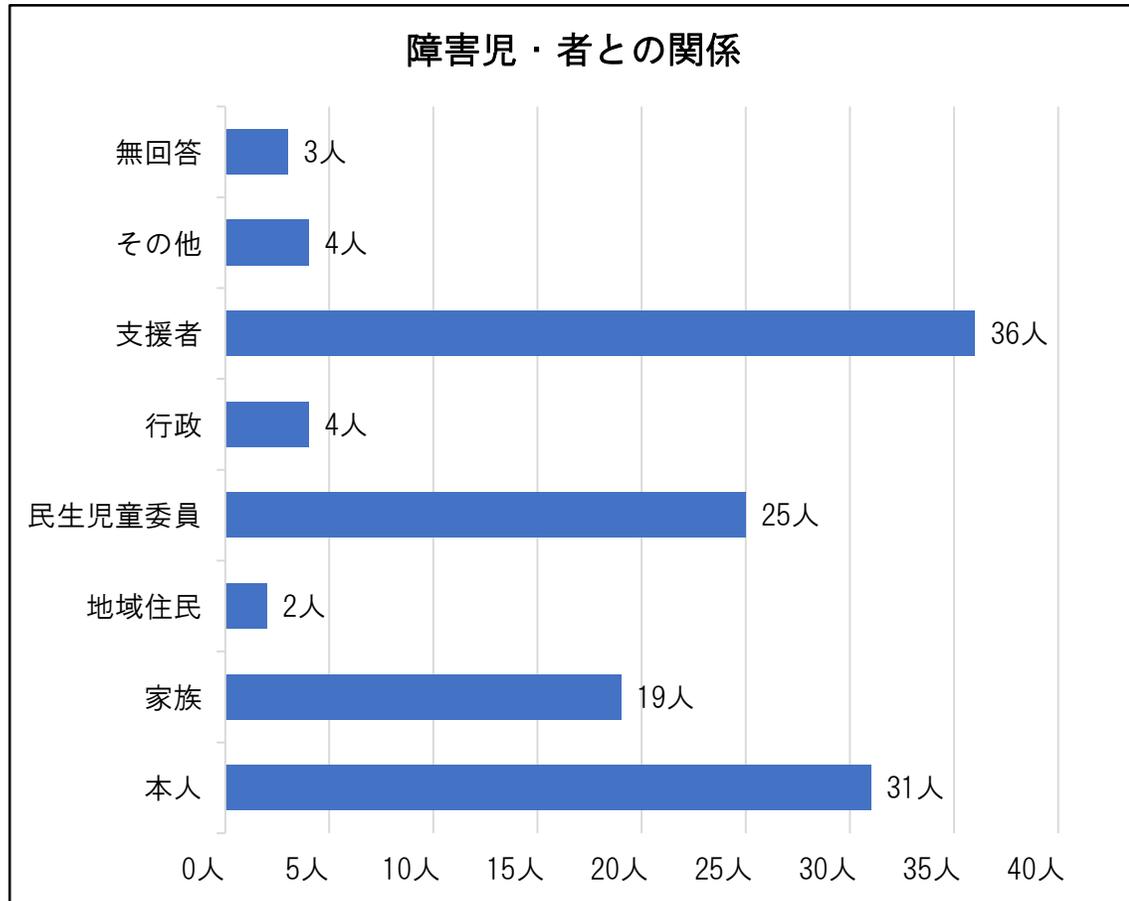
<アンケートについて>

～内 容～

- ・ あなたのことについて (年齢 フォーラムを知った方法 過去の参加回数 障害児・者との関係)
- ・ 主な障害種別
- ・ 暮らしの在り方 (ひとり暮らし 家族等と同居 施設)
- ・ あなたが困り事を感じた時に相談や助けを求める人のこと
- ・ あなたの災害時の備えについて
- ・ 福祉サービス提供事業所として災害に備えていること

# あまのくらし部会フォーラム ⑤

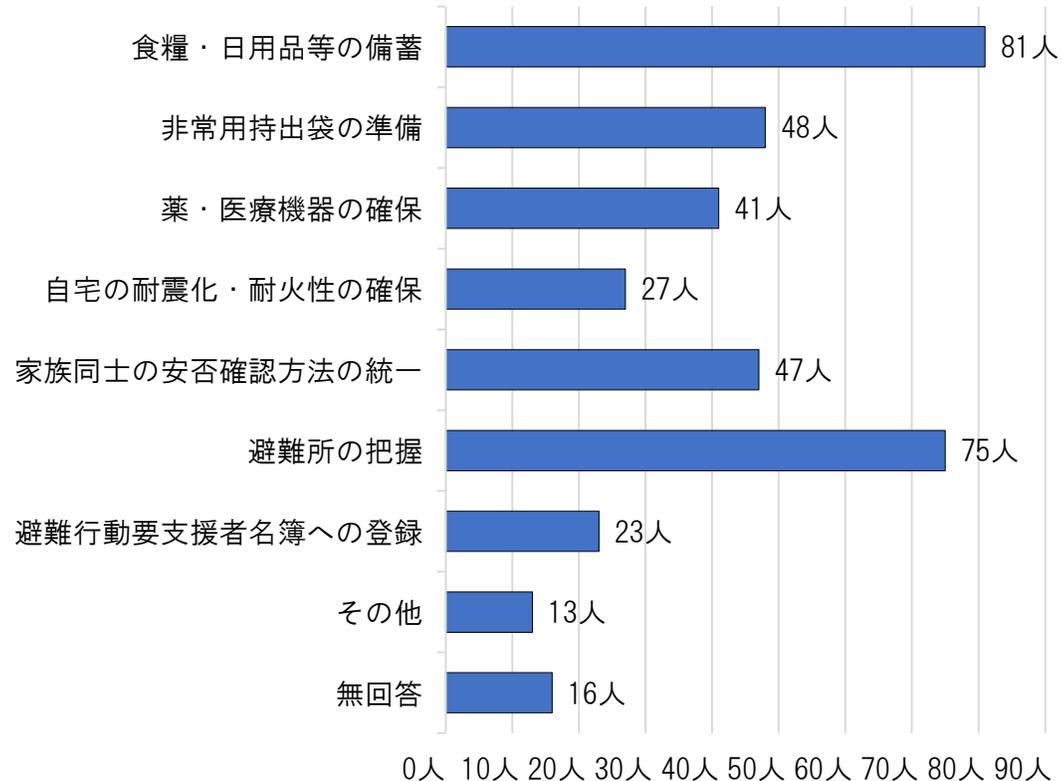
<アンケート集計結果>



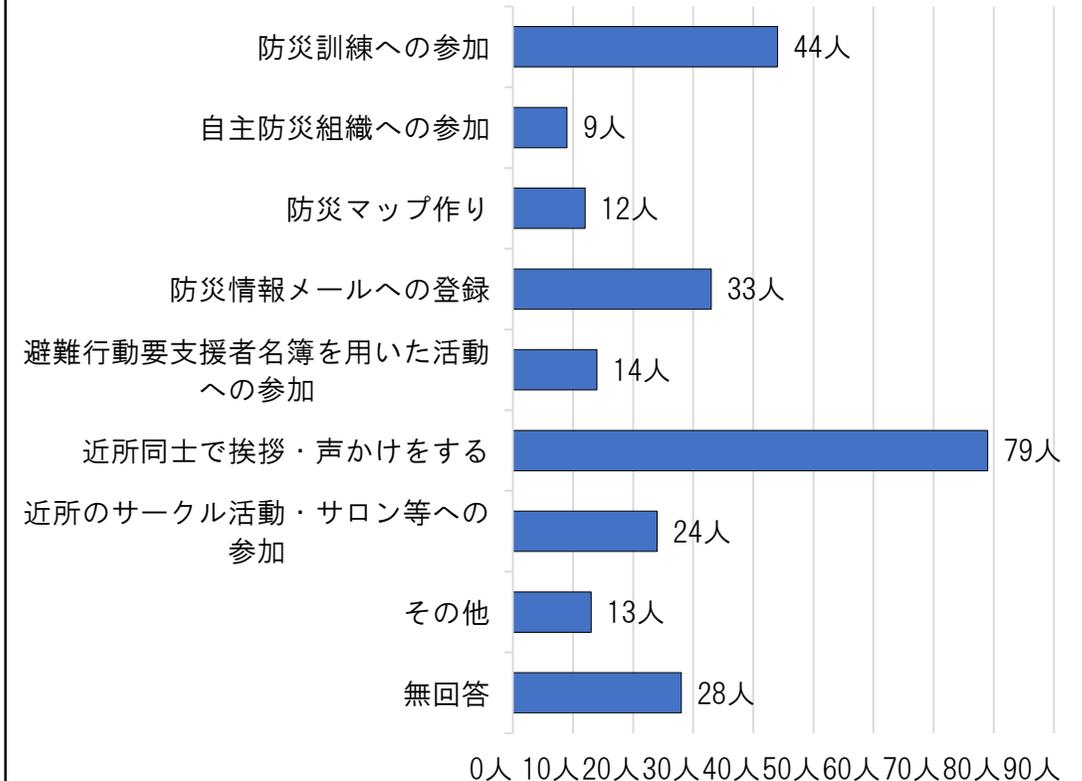
# あまのくらし部会フォーラム ⑥

## <アンケート集計結果>

### 自分や家族で災害に備えていること（自助）



### 地域の人たちと災害に備えていること（共助）



# あまのくらし部会フォーラム アンケートについて

<集計結果を基にした分析>

意識調査の結果について、部会委員で下記の内容についてグループに分かれて分析した。

## ○「あなたが困り事を感じた時に相談や助けを求める人」

アンケート調査において家族間の繋がりの強さは尼崎市住民の傾向として現れていたことから、今後の取り組みを展開する上でも重要となる要素である。

# あまのくらし部会フォーラム アンケートについて

## ○「**自宅や家族で災害に備えていること（自助）**」

障害者が災害への備えの必要性を意識し、積極的に防災訓練等に参加したとしても主催者等に受け入れてもらえなかった事例もあり、障害者からの地域への働き掛けによって地域住民の理解を深める必要がある。

## ○「**地域の人たちと災害に備えていること（共助）**」

障害分野を問わず、災害が発生した直後は共助の重要性について着目されるが、時間経過とともに形骸化する実情もある。今回のアンケート調査を通じて共助の重要性を認識している人の存在を一定数（100名以上）把握できたことから、今後の具体的な取り組みを障害分野から発信していく契機になると思われる。

# 今後に向けて

- 避難所 福祉避難所 防災訓練

地域の防災訓練などに障害者が参加できるように、また、日頃から障害への理解が深まるような、地域と協力した具体的な取り組み。

- 避難行動要支援者名簿

名簿の意義や活用方法について啓発できる取り組み。

- あまのくらし部会フォーラム

上記内容の取り組みの発表など、地域と障害者の繋がりなど、テーマについては検討を進める。